

① 学習指導案

プログラム	No.11 「 地域景観プランナーになろう 」
单元名 (全60時間)	当尾文化財PR大作戦！
学習のねらい	「ふるさと」である南加茂台小学校区を学びの場とすることで、地域のよさや素晴らしさに気づき、ふるさとを愛する気持ちを育てる。
学習内容	1 課題発見編（10h） 2 課題解決編・取組の実行編（35h） 3 まとめ編（15h）
参考資料 準備品 実施場所等	名刹、古刹の百景写真 タブレット、電子黒板 南加茂台小学校区内、浄瑠璃寺、岩船寺、教室、パソコン教室

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
10	○事前に当尾地区について考え、情報収集を行う。 ○見学をし、調べて問題点と課題を決定する。	○自分たちの住んでいる校区は、どんなところか、どのような地域なのかを考えさせる。 ○問題点と課題を見つけられるよう支援する。	活動の意欲（観察、ワークシート） 課題設定能力（観察、ワークシート）
35	○課題に対して解決のための方法を決定する。 ○調べ学習をする。 ○集めた資料を整理する。 ○取組について中間発表する。 ○中間発表をもとに、さらに課題を見つける。 ○改善策を考え実行する。 ○成果物を発表する。	○調べる中で、設定した課題について解決のために自分ができることを考えさせる。 ○友だちと課題について話し合わせる。 ○中間発表をもとに、具体的な改善策を考えさせる。	課題追求能力（観察、ワークシート） コミュニケーション能力（観察） 課題追求能力（観察、ポートフォリオ）
15	○成果物に対する評価を集め、評価の分析を行う。 ○改善を加えながら何度も発表をする。	○授業参観、他の小学校との合同発表会、5年生に向けて、の3回発表を行う事を知らせ、改善させる。	表現力（発表、パンフレット）

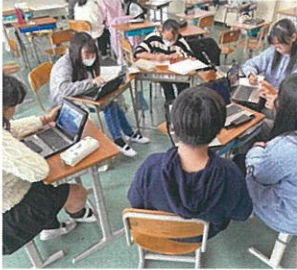
<留意点>

- ・校外で活動する際には安全に十分注意させる。

・写真を撮る時は、肖像権やプライバシーの侵害等について、発達段階にあった指導を行う。

② 事業実施報告書詳細

学校名 木津川市立南加茂台小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
10	教室 浄瑠璃寺 岩船寺	・地域に伝わるお話を聞いたり、文化財について調べたりする。 ・文化財の見学をしたり、それに関わる人々の思いを聞いたりする。 ・見学や調査からわかったことを整理し、文化財を取り巻く課題の現状を明らかにする。 ・課題解決に向け、自分たちにできることを考える。	 	・やってみたい！という意欲を持った。 ・どんなことができるだろうか、と課題意識が芽生えた。
35	教室 浄瑠璃寺 岩船寺	・文化財の情報発信の方法について話し合い、情報を整理する。 ・情報発信を行うために必要なことを出し合い、資料調べやインタビュー等で情報を収集する。 ・文化財の保護に関わる人々に、自分たちの情報発信について意見をもらい、活動の方向性を見いだすために整理分析する。 ・情報発信についての意見をふまえ、情報発信の対象や表現方法に	 	・自分の意見を持つこと、友達の意見を聞くことで双方の意見を話し合いながら自分の意見を深めることにつながった。

		について検討しながら活動を積極的に行う。		
15	教室 木津川市 立泉川中 学校	・自分たちの活動を振り返ると友に、地域の文化財保護の取組と自分たちの関わりについて考える。 ・他校の取組の発表から、自分たちの活動にも活かそうな取組を考えたりまとめたりする。 ・友達と協働しながら、文化財についての情報発信に向けた取組をまとめ、交流会で発表する。	 	・自分たちの活動に自信を持った。 ・他校の取組の発表から、地域の良さをもっと知れた。 ・下学年へもこの取組を繋げたい。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 ・活動のイメージをもたせるために、古刹や名刹百景を見せたり、当尾にまつわる話を聞いたり、昨年度の6年生の作品を鑑賞したりした。 ・「浄瑠璃寺、岩船寺のいいところ、困っているところを探そう」と話題を提供したりして、意識化を図った。 ・住職にインタビューをし、寺についてお話をいただいた。
(2) 実施にあたり苦労した点 ・6年生児童の成長段階として、豊かな発想を持っていても、「現実的に無理だな」と思うことが先走ってしまい、表に出しにくかった。それを子ども同士の話し合い活動で出させるのが苦労した。 ・校外での活動の際に安全確保するための指導者の確保。
(3) 児童の反応 ・1～5年生児童、保護者、地域の方々、近隣の小学校の先生方などに発表でき、皆満足していた。 ・「自分の住んでいる地域にはすてきなところがたくさんある」と、自分の住む町に誇りを

持つ児童が多く見られた。

- ・地域住民や保護者の方々、学校を訪れるお客様からの評判もよく、子どもたちはうれしそうだった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- ・校区の自然や歴史、文化財など、豊かな地域教材に目を向けるよい機会となった。
- ・担任も地域のことをあまり知らない状態であったが、取材を通して地域のことを知り、地域の方が地域についてどのような思いをもっているのかについても直接知ることができた。
- ・1人1台のタブレット端末を使用したので、動画や写真の撮影などに活用できた。また、編集作業もやりやすかった。
- ・担任だけでなく、できあがりを見た他の教職員も、地域教材をさらに発掘したいという意欲をもつきっかけとなった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

- ・6年生児童の成長段階として、豊かな発想を持っていても、「現実的に無理だな」と思うことが先走ってしまい、表に出しにくい。それを子ども同士の話し合い活動で出させるよう留意し指導する。
- ・指導者自身が地域を知り、そのよさを十分に知る必要がある。校内研修に地域のフィールドワークを取り入れ、さらに多くの地域教材を発掘したい。